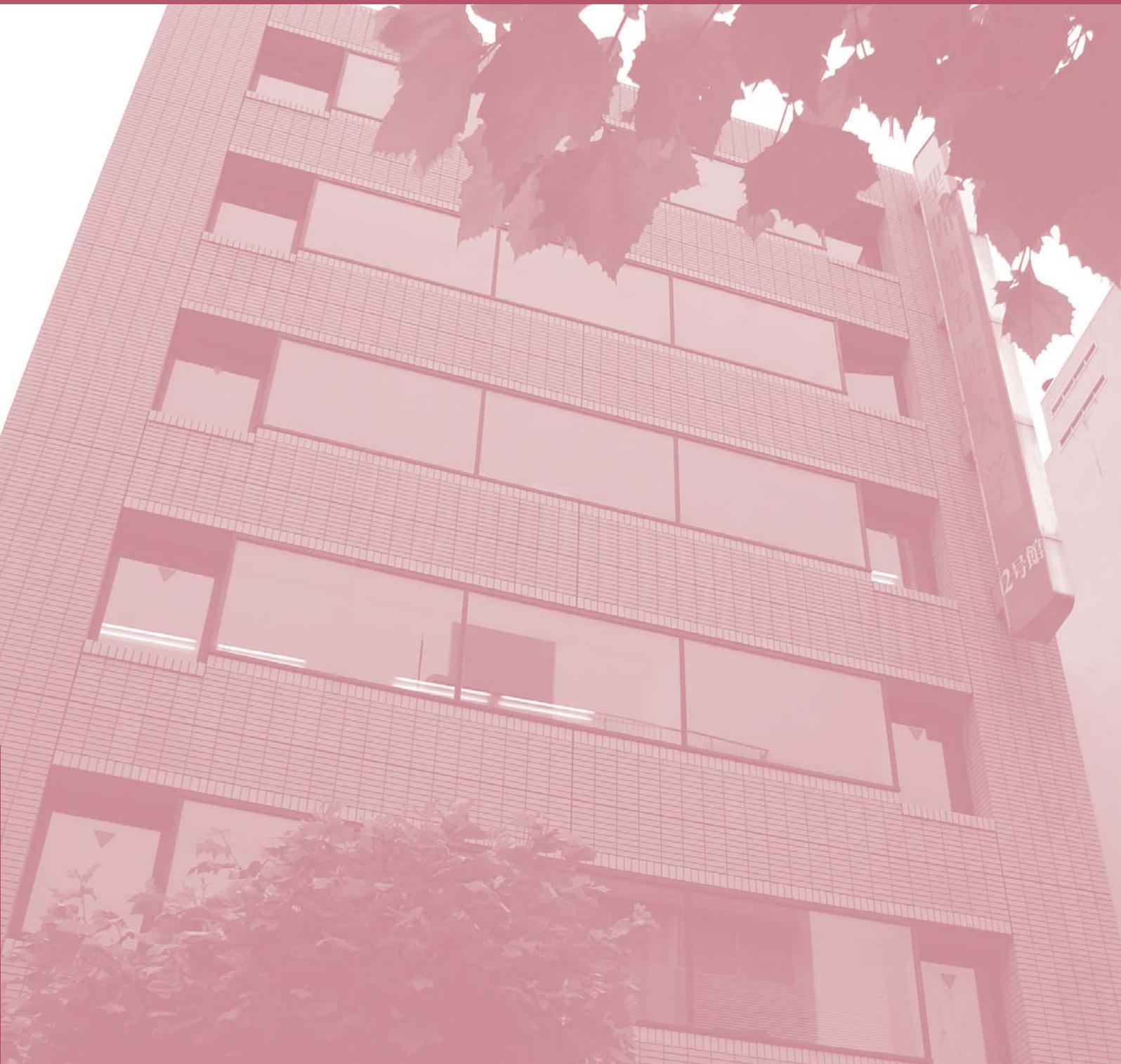


**St. Luke's College of Nursing
RCDNP Annual Report 2008**

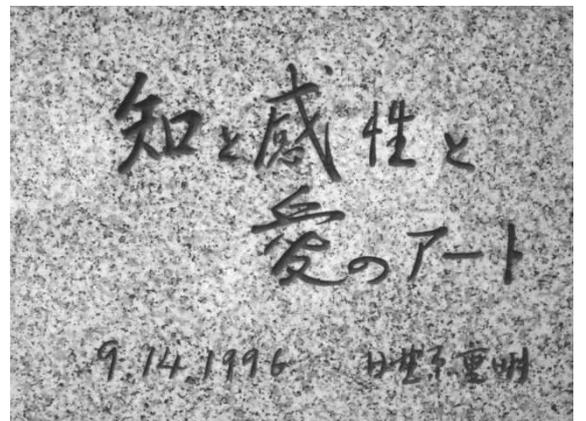
2008 年度聖路加看護大学

看護実践開発研究センター報告書



少子高齢社会で生じている健康問題や社会の動向を、看護の視点でグローバルに捉え、科学的根拠を集積し、市民とのパートナーシップをとりながら、看護の提供方法を開発研究することを目的とし、開設されました。組織はセンター長のリーダーシップのもとに、「看護ケア研究部門」、「教育研究部門」、「国際看護研究部門」、「政策研究部門」、「継続教育部門」の5つの部門をおきます。各部門は、独立しながらも機能的に連携しています。看護学の研究課題は、実践の場から生まれ、そして研究成果は実践の場に還るものでなければなりません。このよい循環をつくる活動を推進いたします。

おもに、看護実践開発に関わる研究と、その支援体制の確立、国際的・学際的な交流事業、市民・専門職に対する生涯学習事業、看護サービスのモデルとなる実践の場の提供、などの事業を行います。また、これらの研究事業をつなぎ、成果を蓄積し、臨床の場に提供できるようなデータベースを開発していきます。



2008 年度研究センター報告書

センター長挨拶

看護実践開発研究センター センター長 山田雅子

看護の仕事は、人が胎児の頃から亡くなるまで、本当にさまざまな場面で皆さまの生活の仕方の中に深くかわり、より良く生きることを一緒に考えていく仕事です。それは病院の中だけではありません。そして何か病気を持っているときだけでもありません。この大事な考え方は、時として看護師自身が忘れてしまい、注射を打つことや病状を医師に報告することだけで看護をしている気になってしまうことも多いのです。聖路加看護大学看護実践開発研究センターでは、健康って何だろう、健康でよりよく生活していくためにはどうしたらよいかについて、看護師が市民のみなさまと共に、もう一度振り返り、具体的な実践につなげていくことを大きなテーマとしております。この報告書はたくさんの試みのなかのエッセンスをお伝えするために企画いたしました。ご参加いただきましたみなさま、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



教育研究部門

教育研究部門長 菱沼典子

お蔭様で本年度もセンター1階の「るかなび」が活発に活動できました。本年度は、聖路加・テルモ共同研究事業の一環として活動しました。また、骨粗鬆財団から研究費を得て、骨密度のパムフレット作成も試みました。「るかなび」は、中央区築地の町に密着し、普通に暮らす地域の方々から、『あそこは使えるよ』と言っていただける場になりたいと思っています。「るかなび」は来訪者が主役です。引き続き次年度も、よろしくお願いいたします。



政策研究部門

政策研究部門長 井部俊子

2008年6月24日に政策関連の研究や活動を行っている研究者4名との会合をもち、政策研究部門の活動計画を検討した。その結果、本学における政策関連研究や活動と研究者リストを作成し、研究者間の連携をとる必要があると考え、学内にメールで登録を呼びかけたところ8件の研究や実践活動が報告された。(表1)

政策に関連した研究や実践活動は相互関連的な内容であり、本学の研究者間の意見交換を行うことによって、研究や実践活動に反映することが可能となろう。



| 分野 | | 研究・事業内容等 | 補助金・助成金等 |
|---------|--------------|---|---------------------|
| 小児 | 及川先生 | 1. 重症心身障害児の在宅ケア：相談支援の機能強化をはかるための調査研究事業 2. 子どもの健康を考える会（ナースクリニック） | |
| 精神 | 萱間先生 | 1. 精神科訪問看護の効果の縦断研究 精神科訪問看護に関する報酬制度の充実の根拠として 2. 精神科合併症病棟における看護必要度の把握 精神病床の看護要員の配置に関する根拠として 3. こころの健康科学（国立精研 樋口班）精神科医療の診療報酬に関する研究 4. こころの健康科学（国立精研 竹島班）改革ビジョンフォローアップ研究 精神科地域移行という政策のモニタリング 5. NPO「つつじ会」理事（中央区の精神障害者家族会が作るグループホーム、小規模作業所、生活支援センターの機能を持つ） | 3.4. 厚生科研 |
| 老年 | 亀井先生 | 特養の医療ニーズ増大に対応するための、介護との連携による看護のリーダーシップを明確に打出すもの：排泄と吸引の技術と水準を明確にする（老年看護学会政策委員会が受けている研究事業：厚生省老人保健事業補助金） | 厚生省老人保健事業 |
| 老年 | 梶井先生 | 認知症高齢者の学際的チームアプローチに関するケアの質評価システムの開発（文部科研：基盤B） | 文部科研 |
| 母性 | 片岡先生 江藤先生 | 1. Quality Indicator の開発：社会に対し出産ケアの質を保証するために（文部科研：萌芽） 2. 妊婦さん向けクラス（中央区とのセンター連携事業） 3. 中央区での助産師活動（現在看護ケア部門） | 1. 文部科研 2.3. 中央区 |
| 聖路加・テルモ | 小口先生 | 新健康カレッジ(テルモとの共同事業) | テルモ |
| 地域 | 吉田先生 | 中央区民カレッジ（中央区との連携事業） | 中央区 |
| 地域 | 山田先生 | 市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ねるまちづくり」の開発と評価（厚生科研・小松） | 厚生科研 |

継続教育部門長

継続教育部門長 松谷美和子

継続教育部門は、看護専門職者の継続教育を担当しています。平成20年度は、認定看護管理者コース・ファーストレベル3回生80名の修了生を輩出いたしました。修了生の上司の方から、研修後の成長ぶりが報告されています。これからも文章力、指導力、問題解決力などを高めて、実践の質を高めていく看護師への道案内と後押しの役目を果たしてまいります。平成21年度は認定看護管理者コース・セカンドレベルを開講いたします。その後は、ファーストレベルを2年間行い、セカンドレベルを1年間行うというサンドイッチ方式をくり返してまいります。

認定看護師コースは、不妊症看護15名、がん化学療法看護30名、訪問看護30名の修了生を輩出しました。研修生の方からは、先生方が何でも相談にのってくれる；学ぶ環境が整っている；働きながらで少々きつかったが、受講してよかった；貴重な体験の積み重ねで、自然に力がついている；同じ専門領域の仲間ができた・・・などの声が寄せられました。これからも、看護実践につながる学びの場として充実を図ってまいります。



国際看護研究部門

国際看護研究部門長 田代順子

国際看護研究部門は、本センターでの国際交流に関する企画運営に関する事業、及び、西太平洋地域におけるプライマリヘルスケアの研究に関する事業を推進する部門です。加えて、1990年からWHOから委嘱されているWHOプライマリヘルスケア看護開発協力センター（WHO Collaborating Center for Nursing in Primary Health Care）が国際医療協力研究委託費研究「大学院修士課程の「ウィメンズヘルス・助産・看護人材開発協力学」のカリキュラム、教材開発研究を進めています。この研究では、日本国内の国際助産学、保健・看護学を開講する大学院や学部教員で「国際助産・看護学コンソーシアム」を設立しました。新たな学問分野である国際助産・看護学の発展を協働して進めております。今年度も、海外から日本の看護を学ぶ看護リーダーを受け入れて研修協力をさせていただきます。WHOの西太平洋および南西アジア地区で推進している、People-Centered Health Care（人々が中心のケア）を国内外で推進できるよう今後とも活動を続けてゆきたいと考えております。



国際看護研究部門の一貫として、海外からの研修に協力をしています。2008年には3つのグループの海外の看護リーダーの方々をお迎えし、聖路加看護大学での教育・研究活動について研修をしていただきました。

- 5月29日に23名と10月16日に12名国際交流協会受け入れの看護指導者育成コース及び母子保健管理コースの研修をそれぞれ受け入れ、日本における看護研究に関して講義・施設見学を支援しました。
- 11月7日State Islamic 大学学長・教員および宗教省役人の計8名の日本研修をに受け入れ本学の学部・大学院教育の概要を説明しました。
- 12月5日国際医療センター受け入れのベトナム、ハイズーン医療技術大学教員6名の看護教育の実際に関して、研修支援を行いました。

看護ケア研究部門

看護ケア研究部門長 小松浩子

本学では、さまざまな人の健康状態に焦点をあてて看護実践開発研究をすすめています。看護ケア研究部門では、研究センターを中心に、看護実践開発研究をフィールドワークとしてすすめたり、研究成果を新しい看護ケアとして地域で暮らす人々に提供し、評価を頂いています。今年度のプロジェクトは下記の10プロジェクトです。

- 赤ちゃんがやってくる
- ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ
- 子どもの健康、知ろう、考えよう！—子供健康を家族と考える学習・交流会—
- 天使の保護者ルカの会
- 高齢者のための栄養相談・心理カウンセリング
- 和みの会
- ルカ子母乳育児相談室
- 乳がん女性のためのサポートプログラム
- リンパ浮腫ケアステーション
- 高齢者在宅看護・介護相談

年2-3回の部門会議では、各プロジェクトの活動状況と課題を話しあい、共通の課題や相互に協力できる事柄を出し合い協働をすすめています。今年度は、他部門との協働を強化し、研究プロジェクトにボランティアが積極的に参加していただくことを促進いたしました。今後も、部門内外の相互協力を強めていきたいと考えております。





ナースクリニック



■「赤ちゃんがやってくる」(看護ケア研究部門)

事業主：片岡 弥恵子 開催日：6回/年 参加人数：61組175名

「赤ちゃんがやってくる」は、新しく子どもが生まれる家族、特に兄弟になる子どもたちに対して、「赤ちゃんが生まれるってどういうこと?」「なぜ、赤ちゃんが生まれるの?」「赤ちゃんとは?」などについて学習し、新しく家族を迎えるための準備クラスです。兄弟になる子どもたちが、新しい生命の誕生を通じて、自分の生・性を大切にすることができるよう働きかけると同時に、母親や父親が、今後子どもたちと性に関する話ができるきっかけ作りになっています。

■「ルカ子母乳育児相談室」(看護ケア研究部門)

事業主：堀内 成子 開催日：毎週月・水曜日 参加人数：延べ1000名以上

ルカ子母乳育児相談室は、現在週2回の来所相談と訪問での相談を行っております。開設以来、延べ1000組以上のお母さまとお子さまの相談実績があります。中央区を中心に近隣の区からも相談にいらしています。最近では、訪問での相談が増えています。初回の相談は半数以上が出産後1ヶ月以内の方です。相談内容は、「母乳の分泌が足りているかどうか不安」、「胸が張ってこなくなった」などという母乳の分泌に関することが半数以上、次に多いのがしこりや乳腺炎などの乳房のトラブルに関することです。お子さまの睡眠や発達などの相談になることもありますし、1歳以上になると卒乳や断乳の相談もあります。何度か相談していくうちに、お子さまの成長を見ることができます。これは私たちにとっても大きな喜びであり、エネルギーになります。受付をメールのみにしていること、専任スタッフではないことから、「今すぐみて欲しい」というニーズに応えきれないというジレンマもありますが、1人でも多くのお母さまが楽しく育児をしていくためのサポートを今後もしていきたいと思っております。

■「ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ」(看護ケア研究部門)

事業主：森 明子 開催日：6回/年 参加人数：延べ39名

テーマはそれぞれ、第1回：子宮筋腫、第2回：子宮内膜症、第3回：不育症、第4・5回：不妊症、第6回：胎児の健康であった。基本的に看護師・助産師によるミニ講座と自助グループメンバーの体験談および交流会の形式で行った。第4・5回：不妊症は、不妊症看護認定看護師教育課程の研修生が2グループに分かれ、企画・運営した。参加者は、主婦やアルバイトのほか、会社員、医療職、本学大学院ウィメンズヘルス助産学専攻の院生などであった。30歳代が最も多かった。参加動機としては、テーマへの関心、知識や情報が欲しい、体験者の話が聞きたい、に集約された。参加した感想としては、とても勉強になった、勇気が出る、孤独との戦いなのでこうした集まりがあると心強い、気持ちを吐き出した、などであった。開催の時間帯や時間の長さは、“ちょうどよい”とする者が多かったが、なかには“短い”という意見もあった。概ね“また参加したい”と評価していた。今後の課題は、引き続き内容の充実に努めながら定着をはかり、広報手段の工夫をして参加者を増やすことである。

■「乳がん女性のためのサポートプログラム」(看護ケア研究部門)

事業主：小松 浩子 開催日：9回/年 参加人数：422名

本事業は5年目を向かえ、参加者の定着率も高まってきた。更に新規参加者も増加しつつある。様々な治療期にある体験者が、治療の副作用や再建法、生活上の苦悩、家族や職場での過ごし方、今後の生き方、治療選択について自由に語りあい、有意義な情報交換、気持ちの共有の場になっている。一方で、若年乳がん女性が増加したり、再発患者がいたりなど、多彩な問題に関して語り合うこととなった。現在グループ分けやスピノフ開催などを検討している。年2回の学習会は好評であり、特に乳腺外来医師による診療に関する講演は多くの方が参加した。

また、長期にわたり参加している方を中心に、外来診療時に相談をうけるボランティア活動に取り組み始めた。この事業に参加している乳がん体験者が支援者として活動したいという原動力が生まれてきたことは重要な変化と考えられる。この活動は始動したばかりのため相談件数は少ないが、軌道にのれるよう支援している。

■「子どもの健康、知ろう！考えよう！」(看護ケア研究部門)

事業主：及川 郁子 開催日：4回/年 参加人数：95名

2008年度は4回実施した。7月10日「子どもの応急処置と救急蘇生」10月30日「子どもの食事と栄養」1月7日「子どもの冬の健康のために」2月16日「付き合い方が難しい子どもたちのことを知ろう」である。現在の子どもの問題や季節に合わせ、専門の講師を招いて講義を1時間程度実施、その後参加者との質疑応答を通しての交流を行っている。参加者は中央区在住・在勤であり、夕方の2時間、積極的に会に参加しリピーターもいる。参加者には毎回アンケートを実施しているが、学習内容、会の運営などについては肯定的な評価を得ている。内容のわかりやすさ、講師や参加者とともに問題や課題を身近に話せて堅苦しくないこと、全体の雰囲気がいよことなどが挙げられている。託児を行うため子どもを預けての保護者の参加もあり、それぞれのニーズに合わせて参加していることが伺える。今後も参加を希望している人が多く、ニーズに吸い上げながら企画運営を行っていきたい。参加者のほとんどは、保育所・幼稚園・学校に配布しているチラシを見て申し込んでいるため、早めに企画し、チラシの配布を積極的に行うことが大切である。今年度は、病院看護師、地域の保育士や保健師、養護教諭の方も企画運営委員となって参加しているが、次年度も引き続きこの方法で企画運営を進めていく予定である。

■「天使の保護者ルカの会」(看護ケア研究部門)

事業主：堀内 成子 開催日：12回/年 参加人数：162名

2008年度は体験者の交流を目的としたお話を8回、またグリーフケアに関連したイベントとして、カラーセラピー、ファーストステップシューズ、エンジェルキルトを開催し、延べ143名の参加があった。研修として学生11名、臨床の医療者14名を受け入れた。

今年度の特徴として、土曜日の開催を多くした影響か、夫婦での参加が増えたこと、また開催の回数を減らした影響か、1回の参加人数が多いこと、1回のお話会の中でのリピーターの割合が増え、体験者同士の交流というセルフヘルプグループならではの機能がうまく働いたことが挙げられる。また、イ

インターネットを見て申し込みをされる方が依然多いが、病院での紹介も増えてきている。この背景には、2008年度はペリネイタルロスのケアを実践する看護職者を対象に、教育プログラムを会のスタッフが開催したこと、その一環で研修生がほぼ毎回お話会に参加していることなども影響していると考えられるが、プログラムとは関係なく、自発的に研修を希望する医療者も増え、これまでの活動を通じ、医療者へも会の存在意義が浸透し始めていると考えられた。

2007年度から会のスタッフにより内容を検討していた「天使キット」、及び「悲しみのそばで」が、2008年度後半にアメジストから販売され始めたところである。

■「リンパ浮腫ケアステーション」(看護ケア研究部門)

事業主：小松 浩子 開催日：毎週火曜日 参加人数：174名

今年度、開設したリンパ浮腫ケアステーションは、がん看護を専門とする看護師、あん摩マッサージ指圧師、乳がん専門医がチームを組織し、がんの治療に伴うリンパ浮腫の予防、早期発見、適切なケアに関するセルフケアの教育、および専門的ケアの提供など、リンパ浮腫に対する統合的なケアを行っています。

具体的には、リンパ浮腫をもつがん体験者に対して、リンパドレナージなどのリンパ浮腫ケアの提供や、ご自分で自宅でもケアが継続できるようにセルフケア指導を行いました(1日5名)。また、リンパ浮腫が軽度の方、予防が必要な方には毎月1回グループ制(4~6名)でリンパ浮腫の予防、早期発見のためのセルフケア指導も行いました。ケアを受けた方からは「とても心配だったから、来てよかった。」「とっても楽になった。」などの感想が聞かれています。

本事業では、医療者(医師、看護師)の知識、技術の向上を目指して、医療者向けリンパ浮腫ケア講習会も7月と1月に2回開催し、57名が参加しました。

来年度は、本ステーションを利用される方のニーズをふまえて、より多くの皆様へ適切なリンパ浮腫ケアが提供できるよう工夫をしていきたいと思っております。

■「高齢者のための栄養相談と心理カウンセリング」(看護ケア研究部門)

事業主：梶井 文子 開催日：火・木曜日 参加人数：17名

1)栄養相談：本年度は、3名の高齢者の家族介護者から、食事のとり方、栄養評価についての相談があった。現在高齢者に行っている食事援助方法について「この方法でよいのか」と悩んでいる内容が中心であった。在宅で生活する高齢者の年齢や疾患・障害から予後を踏まえたQOL、食嗜好、食歴等から相談内容に対して慎重に回答した。家族が実施している方法でよい点を評価し、毎日の食事なので継続して実施可能になるように新しい方法や簡便な方法等の提示も行えた。

2)心理カウンセリング：本年度は延べ14名の慢性疾患、癌などの疾患をもち、不安、うつ症状がある高齢者に対して支持的カウンセリングや感情の表出を促す手助け及びイメージ療法を平均週一回のカウンセリングを実施した。「気持ち楽になった」「カウンセリングを始めてからすごく変わったと子供に言われる」などの評価を得ている。来年度は様々な年代の方のメンタルヘルスの向上に助力したい。

■「和みの会」(看護ケア研究部門)

事業主：亀井 智子 開催日：毎週金曜日 参加人数：975名

本会は、21世紀COEプログラム高齢者ケアプロジェクトと中央区民企画委員との協働によって開催したシンポジウム終了後の評価から発展し、創設に至り、会の名称は区民が命名した。本会は、毎週金曜日の午後開催。参加資格は65歳以上で本プログラムに興味のある方、ひとり暮らしなど他者との交流が少ない方、軽度の認知症をもつ方、小中学生等である。現在の登録者数は大人14名、小中学生7名、地域ボランティア5名、学部学生ボランティア3名、学部実習生3名で、国内外からの見学者を含む2008年度の延参加数は975名であった。プログラムやおやつの内容は、老年看護学の教員と専属看護師が考え実施している。コミュニケーション促進プログラム、多世代交流書道、キルトタペストリー作り、アロマハンドケア、歌の会、ちぎり絵、ペーパークラフト、地域散策や、大学の庭等などの野外活動等、毎週異なるプログラムを両世代で楽しんでいる。高齢者と小学生の関係は、相互交流を通じて世代を超えた学習の場となっている。プログラムやゲームを通じて両世代が互いに教え、教えられ、小学生は高齢者への肯定的イメージの形成に、高齢者にとっては抑うつ改善とQOLの向上に有効であるとの成果が認められている。スタッフはプログラムを通して両世代の交流や高齢者のヘルスプロモーション、子どもの高齢者理解に向けた支援を行っている。

■「出張介護講座」(看護ケア研究部門)

事業主：亀井 智子 開催日：予約制 参加人数：115名

今年度は、3件(区内1件、区外2件)の出張介護講座の依頼があり実施した。

1. 日本橋高齢者在宅サービスセンターを利用する高齢者を介護する家族介護者(20名)を対象に「認知症高齢者を在宅で介護する方法」を実施した。
2. 民間企業での中高年社員(45名)を対象に「Elderly Care-Foot Care 今からはじめるフットケア～毎日の足のケア～」を実施した。
3. 武蔵野市役所では、在宅ケアを行うヘルパー(50名)を対象に「糖尿病の基礎知識と対応の仕方」を実施した。

講座の依頼は、インターネットによる広報や口コミからの情報によるものであった。どの講座も講義だけでなく実演や演習を伴いながらの実施であったため、講座対象者の理解状況や参加満足度は高い様子であった。

■「転倒骨折予防実践講座」(看護ケア研究部門)

事業主：亀井 智子 開催日：5回/年 参加人数：55名

転倒骨折予防講座は4日間コースで9月25日、10月2日、9日、16日に開催し、初回から12週後の12月4日にフォローアップ講座の計5回の実践プログラムを提供した。参加者は午前・午後コース合わせ計55名であった。

プログラムの内容は、①問診、②肥満度、骨密度・歩行速度・大腿径周囲長などの身体測定、③健康チェック、④健康教育(転倒の疫学、食事と栄養、足の手入れ、自宅の安全チェック等)、⑤体操プログラム(歩行、ストレッチ、スクエアステップ、椅子に座った体操、脳トレ、マットを用いた体操等)、⑥質疑と応答、⑦参加者の交流(茶話)で構成した。

参加者満足度は非常に高く、各プログラムとも殆どの者が「大変良い」と評価していた。現在、本講座参加者の転倒経験について追跡調査中である。12か月後のフォローアップ講座は、2009年9月に開催予定である。



市民健康講座



■「健康支援ボランティア講座」(教育研究部門)

事業主：大久保 菜穂子 開催日：4回/年 参加人数：約30名

本講座は、「るかなび」の紹介をした後、参加者が3名一組になり、骨密度、血圧、身長、体重、体脂肪を担当者とともに測定し、その後健康情報コーナーで、健康に関する書籍の案内とともに見学した。

休憩を挟み、「自分のからだ、自分でする健康チェック」と称した講義を大久保が行い、自分自身の測定結果を照らし合わせながら、健康状態について確認をすることを行った。自分の測定結果を正確に判断したいという思いから、参加者からは多くの質問があり、それに返答をした。

ボランティア講座は、計4回シリーズの最終回であったことから、最後に参加者に修了証を渡し、講座は終了した。

■「ストレスマネジメントヨガ」(教育研究部門)

事業主：小口 江美子 開催日：12回/年 参加人数：75名

2008年10月から3月までの木曜日夕刻18時より19時30分迄、2週間に1度開講した。

「悩みやストレスを抱える人や、介護中の腰痛・肩こりを抱える人も歓迎」と募集したところ、授業後の学生や会社帰りのOL、会社経営者、主婦、国際病院に通院中の患者さんなどが参加された。前半6回の参加者からは「腰痛や肩こりがほぐれた」「便秘が解消できた」「忙しくて来るまでは億劫だが、来ると非常にリラックスできた」「ストレス発散できた」「この空間が心地よく、普段笑うことが多くなった」「この日がとても楽しみになった。体の不調も減り、前より穏やかになれたと思います」などの感想が寄せられた。

効果判定の結果、ストレスが軽減し活力が増加する等、参加者が心身の快調を取り戻し、喜んでおられることがわかったので、来年度も継続して少しでもお役に立てればと考えている。

■「新健康カレッジ はつらつキャリアウーマン編」(教育研究部門)

事業主：小口 江美子 開催日：3回/年 参加人数：96名

今年度より聖路加看護大学とテルモ株式会社との共同研究事業として市民向け健康セミナーがスタートした。春期は働く女性の健康維持や増進のサポートを目指して全3回行われた。第1回目は聖路加看護大学、森明子教授による「妊娠を迎える女性の体づくり、健康づくり」に関するセミナーが5月21日(水)夕刻18時30分より20時まで行なわれた。参加者からは「結婚を控え、妊娠も近い将来の話ですので、今日のお話はとても参考になりました。」「森先生のお話わかりやすかったです。」などの意見があった。第2回目はウィミンズ・ウェルネス銀座クリニック 関根さおり医師による「体のサインに気づいて病気を未然に防ごう」に関するセミナーが6月18日(水)同時間帯で行なわれた。参加者からは「検診を受ける大切さを身にしみて感じました。」「とてもわかりやすいセミナーでした。」などの意見があった。第3回目は、よしの女性診療所院長 吉野一枝医師による「キャリアウーマンに増加している若年性更年期障害とは」についてのセミナーが7月16日(水)同時間帯で行なわれた。参加者からは「女性の健康について学ぶ機会が多くありがたいです。」「わかりやすいお話でした。」などの意見が寄せられた。2回参加17名、3回参加6名であり、回を重ねるにつれフロアからの質疑応答も活発になり、「学びたいと思いつつもなかなか学ぶ機会がなかったので大変有り難い。」という意見が寄せられた。

■「新健康カレッジ はつらつシニアステージ編」(教育研究部門)

事業主：小口 江美子 開催日：3回/年 参加人数：113名

今年度よりスタートした聖路加看護大学とテルモ株式会社との共同研究事業としての市民向け健康セミナーの秋期シリーズは、シニアの健康の維持や増進のサポートを目指して全3回行われた。第1回目は聖路加国際病院 副院長 内科チェアマン 林田憲明先生による「身近におきる高血圧症とその対策」に関するセミナーが11月1日(土)14時から15時30分迄行なわれ、参加者からは「わかりやすく参加して有意義でした。」などの意見があった。第2回目は、聖路加国際病院 内分泌代謝科医長 門伝昌己先生による「健康診断で見つける糖尿病や糖尿病予備軍とその対策」に関するセミナーが12月6日(土)16時から17時30分迄行なわれ、参加者からは「事例や画像を使ってのお話がよくわかりました。」「ソフトなお話法で受講できてよかったです。」などの意見があった。第3回目は聖路加国際病院 腎臓内科部長 小松康宏先生による「知っておくべき腎臓の働きや慢性腎臓病」に関するセミナーが2009年1月10日(土)14時から15時30分迄行なわれ、参加者からは「2回目、3回目の2回参加させて頂きましたが、身近の問題でもあり、注意深く受講させて頂きました。」「今後も講師の方やテーマを参考に参加したいと思います。」などの意見があった。2回参加18名、3回参加11名であり、近隣の夫婦参加も複数あり、回を重ねるに従い、地元の本セミナーが定着しつつあることが覗かれた。

■「聖路加市民アカデミー」(教育研究部門)

事業主：小口 江美子 開催日：1回/年 参加人数：292名

聖路加市民アカデミーは、2008年10月10日(金)13時30分より16時迄開催され、講演およびミニコンサートが行なわれた。聖路加市民アカデミーは2005年度より始まり、今回で5回目を迎えた。今年度は初めに、聖路加国際病院理事長・同名誉院長・聖路加看護学園理事長 日野原重明先生による「新健康の考え方～健やかに生きるとは～」の講演が行われ、次に聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センター センター長 平松園枝先生による「健康診断の上手な活かし方～主体的健康管理のために～」の講演が行われた。講演後には恒例のミニコンサートが行なわれ、歌手の坂爪いちお氏によりイタリア民謡のカンツォーネの歌声が会場に響き渡った。参加者からは「大変充実した内容でした。毎回楽しみにしております。生きる励みになります。ありがとうございました。」「日々の生活習慣を考えるよい機会になりました。また来年も参加したいと思いますので続けられることを希望致します。中身の濃い充実した催しでした。」「元気の出るお話で前向きになります。帰りの足取りが軽くなりそうです。」などの感想が寄せられた。毎年土曜日開催であったが、今年度は平日開催にも拘らず、例年同様多数の参加者があり、盛況であった。参加者の中には、毎年の聖路加市民アカデミーを楽しみにしている人も少なくなく、聖路加市民アカデミーは年々定着している様子が覗かれた。また今回は遠方より参加の聴覚障害を持つ方の要請により手話通訳付で講演が進められ、大変喜ばれた。

■「中央区民カレッジ まなびのコース」(教育研究部門)

【前期】事業主：山田 雅子 参加人数：24名

【後期】事業主：山田 雅子 参加人数：24名

開講時期：【前期】5月28日(水)～7月23日(水)5回，【後期】10月15日(水)～12月10日(水)5回

時間：18時30分～20時 場所：2号館ぼるかルーム，交流ラウンジ

参加者の背景：前期・後期共に年齢30歳代～70歳代。50・60歳代が最多であった。

事業内容：前期・後期共に、人体の構造・機能と心身の健康、そして健康を維持増進していく上での生活習慣の重要性を学ぶ講義2回、ヨガ3回を行なった。3回目には茶話会を設けて、受講生間での親睦を深められるようにした。

コース評価：ほとんどの参加者が他の生涯学習講座を受講した経験があり、「健康に興味」、「ヨガに興味」、「聖路加看護大学との連携に惹かれた」、「講師が魅力」の理由で参加し、コース終了後に総評として「とてもよかった」「よかった」と評価した。そして講座参加による効果として80%以上が「からだのしくみが理解できた」、「からだの出すサインに気を配るようになった」、「以前より健康的な生活を送るように意識するようになった」とし、60%が「以前より健康に関する記事やテレビを見るようになった」、「以前よりからだの調子がよくなった」と答えた。本講座が区民の健康づくりに効果をもたらしていることが示された。

■「中央区民カレッジ シニアコース」(教育研究部門)

事業主：山田 雅子： 参加人数：30名

開講時期：9月9日(火)～12月16日(火)10回

時間：14時～16時 場所：築地社会教育会館

事業内容：以下の内容で講義，ヨガ，調理実習を行なった。

| | |
|--|-------|
| 1回目：健康ってなあに？病気ってなあに？（医学・講義） | 白木 和夫 |
| 2回目：心やからだの内面に意識をむけよう「ストレッチ&ヨガ」1（ヨガ） | 花村 睦 |
| 3回目：からだにやさしい食事をつくってみよう 1（栄養学・実習） | 鈴木 孝子 |
| 4回目：うつと不安 ー身近な心の不調ー（精神看護学・講義） | 萱間 真美 |
| 5回目：がんは誰でもなる病気（医学・講義） | 白木 和夫 |
| 6回目：心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ&ヨガ」2（ヨガ） | 花村 睦 |
| 7回目：生活と健康について考えよう（地域保健学・講義） | 松本 女里 |
| 8回目：内外から自分のからだを見てみよう（検査の目的とデータの読み方・講義） | 白木 和夫 |
| 9回目：心やからだの内面に意識を向けよう「ストレッチ&ヨガ」3（ヨガ） | 花村 睦 |
| 10回目：からだにやさしい食事を作ってみよう2（栄養学・実習） | 鈴木 孝子 |



■「英文献を読もうパートⅠ」(継続教育部門)

事業主：園城寺 康子 開催日：5回/年 参加人数：12名

テキストとしてはメジカルビュー社の『看護英語読解15のポイント』を使用しながら、他のハンドアウトも加え、特に複雑な構文理解を目指し、解説したり、実際に各自に訳してもらったりして、文法的に正確な内容把握をしていった。また、時間を限定して、テキストからではなく初めて読む問題を訳してもらい、後ほど添削して返却し、個人的に理解度を見ながら助言を試みた。

■「英文献を読もうパートⅡ」(継続教育部門)

事業主：田代 順子 開催日：5回/年 参加人数：4名

今回の受講者は本学修士課程の社会人の2名、1名が受験を考えている中堅看護師、1名が現在、看護以外の領域での修士課程の看護職が受講した。本学の修士課程の院生は、社会人でコアのコースがほとんど終わり、学ぶ習慣を持続させたいことと、英語力を強化したいと考え受講したとのことであった。

希望と講師の都合で、2回ほど、スケジュールを調整し、全員が5回の受講をした。基礎力のある受講者で、3回目ぐらいから、問題なく教材の英語を読むことができる程に講読力がつき、内容の部分での質問があり、ゼミナールのようなコースとなった。スキルアップの目標は、個別な力量の差はあったもののほぼ全員が、講読力が養われたと評価する。しかし、5回は導入であるので、更なる英文講読力を強化するためには、英文を読む機会を維持されること期待している。加えて、現在、看護以外の分野の修士課程の院生は、博士課程を聖路加看護大学大学院後期課程の受験に関して、考え始めたとの発言もあり、受験に関する情報も提供した。

■「看護管理コンサルテーション」(継続教育部門)

事業主：井部 俊子 開催日：1回/年 参加人数：1名

「看護職の管理に関する悩みについて相談を受けサポートする」ことを目的として、看護管理コンサルテーションを企画した。当研究センターが実施している認定看護管理者ファーストレベル修了者のフォローアップも意図している。

今年度は、1件の相談があったが、ファーストレベル修了者ではなかった。看護管理上の課題は多く、コンサルテーションの潜在ニーズはあると考え、効果的な広報を行っていきたい。

■「緩和ケアコンサルテーション」(継続教育部門)

事業主：小松 浩子 梅田 恵 開催日：予約制 参加人数：14名

今年度、12件の緩和ケアコンサルテーションの依頼を受けました。2人で来談されたり、2～3回繰り返し来られた方もおられました。従って参加された方は、14名です。参加された方は、進路についての相談や、専門看護師としての活動の進め方、個々のケースのアセスメントなど、コンサルテーション内容は多岐にわたっています。

緩和ケアの実践は、病院や専門施設に留まらず、広く地域で求められるようになってきています。3名の訪問看護に携わる方の依頼があり、緩和ケアニーズの広がりを実感します。

依頼者はまだまだ多いとは言えず、外部のコンサルテーションを受けることについて、イメージがつきにくかったり、敷居が高い印象があったりするのかもしれませんが。しかし、看護師のキャリアアップにおいて活用できるリソースは十分ではなく、リソースの一つとして、センターにおけるコンサルテーション活動を充実させていければと考えています。

■「がん看護事例検討会」(継続教育部門)

事業主：小松 浩子 矢ヶ崎 香 梅田 恵 開催日：9回/年 参加人数：延べ40名

がん看護専門看護師として活躍している方や、これからがん看護専門看護師を目指している方が月に1回仕事後に集まり、受け持っているケースのアセスメントや、日頃の活動での疑問や悩みを話し合いながら、がん看護専門看護師として活動する意義や可能性などを分かち合っています。今年事例検討会に参加されている方は17名で、延べ参加者は58名でした。これまでに当事例検討会に参加されていた方全員が、今年の日本看護協会の専門看護師認定試験に合格されています。「参加し刺激を受けます」「CNSとしての看護への取り組みが明確になってきました」「アセスメントなど日々の実践に応用できます」などの感想が寄せられています。

■在宅ケアコンサルテーション(継続教育部門)

事業主：山田 雅子 開催日：5回/年 参加人数：2名

2008年度は2名の方から延べ5回の相談を受けた。2名とも本学大学院で地域看護分野の専門看護師課程を修了した看護師で、専門看護師認定審査を受けるに際し、その活動評価を受けることを目的としていた。

それぞれの利用者は、職場で展開されている専門看護師としての役割遂行にあたり、課題の明確化及び進め方に関してのコンサルテーションを必要とした者、研究に取り組むにあたり、質的データの読み方、まとめ方に関してコンサルテーションを必要とした者であった。いずれにおいても、職場における現状分析を的確に行うことができた、あるいは学会発表をするに至ったとした成果に結びついていた。

■退院調整看護師養成プログラムと活動支援(継続教育部門)

事業主：山田 雅子 開催日：5回/年 参加人数：41名

当初定員は30名としていたが、希望者が多く41名の全国から集まった看護師を対象に、12月4日から1月29日にかけて、5日間のプログラムを実施した。内容は以下の通り。参加者は臨床現場で孤軍奮闘していた立場から出て、仲間を得ることで必要な知識や技術を確認したり、互いのネットワークを築くことができ、とても満足したとの感想が数多く寄せられた。

- | | |
|-----|--|
| 1日目 | 退院調整の今日的な動向について理解し退院調整看護師としての役割を考察する 退院調整活動における課題を共有し今後の研修で取り組む学習課題を明確にする |
| 2日目 | 退院調整に必要な具体的な知識とその有効な活用方法について学ぶ 多職種連携の方法としてのカンファレンスの企画・運営方法について学ぶ |
| 3日目 | 退院調整を組織的に展開する方法を学ぶ |
| 4日目 | 退院調整に関連する倫理的ジレンマとその解決方法について学ぶ |
| 5日目 | 地域完結型医療提供体制を組織するための方法について考え戦略を検討する～シンプルな医療と自立支援に向けた看護の継続について考える～ |



聖路加看護大学
 看護実践開発研究センター
 認定看護師教育課程
 入学式



認定看護管理者講習・認定看護師教育課程



「認定看護管理者ファーストレベル講習」(生涯学習支援)

事業主：吉田 千文 開催日：2008年8月25日～9月26日 参加人数：80名

講師：学内：井部俊子(教授)、山田雅子(教授)、中山和弘(教授)、吉田千文(准教授)、奥裕美(助教)、中村綾子(助教)、松本直子(司書)、佐藤晋巨(司書)、学外：石田昌宏(日本看護連携/常任幹事長)、鷹野和美(京都創成大学)、鶴田恵子(日本赤十字看護大学/教授)、手島恵(千葉大学/教授)、別府千恵(北里大学/看護師)、美代賢吾(東京大学医学部附属病院/企画情報運営部副部長)、聖路加国際病院関係講師：佐藤エキ子(副院長・看護部長)、柳橋礼子(副看護部長)、高井今日子(ナースマネジャー)、加藤恵子(ナースマネジャー)、寺井美峰子(リスクマネジャー)、坂本史衣(インфекション・コントロール・マネジャー)、高橋美賀子(ペインコントロール・マネジャー)。

本センターの認定看護管理者講習ファーストレベルカリキュラムに基づき150時間の講習を行なった。開講教科目は看護管理概説15時間(5コマ)、看護専門職論30時間(10コマ)、ヘルスケア提供システム論15時間(5コマ)、看護サービス提供論45時間(15コマ)、グループマネジメント30時間(10コマ)、看護情報論15時間(5コマ)。

また、教科目とは別にレポートの個別指導を行い、随時学習やキャリアに関する相談にのった。今年度は一部教科目において認定看護師3コースとの合同授業も行なった。

修了審査を経て80名全員が修了した。本年度から修了証とともに履修証明書を発行した。受講生によるコース評価では、科目内容、講師、講師資料、レポート課題に関して高い評価を受けた。

「認定看護師教育課程」(①不妊症看護コース・②がん化学療法看護コース・③訪問看護コース)

事業主：山田 雅子 開催日：2008年6月1日～2009年2月28日 参加人数：75名

講師：①森明子(教授)、實崎美奈(助教)
②小松浩子(教授)、矢ヶ崎香(助教)、細川恵子(助教)
③山田雅子(教授)、吉田千文(准教授)、竹森志穂(非常勤講師)、沼田美幸(非常勤講師)

①15名、②30名、③30名の研修生を迎え、600時間の教育を提供した。仕事を継続しながら学習することができることを目的として、開講は基本的には金曜日と土曜日とし、ただし、共通科目(90時間)と各コースの実習期間(180～225時間)は月曜日から金曜日の開講とした。

2008年6月1日から2009年2月28日の9ヶ月間を開講期間とし、入学式から修了式まで一連の運用をしていくに当たり、合計8回の教員会と4回の入試委員会を開催した。

3コースの研修生全員が必要な要件を満たしたため、2月28日に修了式を行った。

初年度の反省を活かし、来年度も引き続き実施する予定である。



聖路加健康情報サービススポット「るかなび」(教育研究部門)

参加人数： 1,055人 (健康相談のみ)

本年度は、聖路加・テルモ共同研究事業の一環として活動した。るかなびボランティア(市民ボランティア21名、専門職ボランティア23名)、コーディネーター2名、運営会議メンバー10名で運用した。8月と年度末を除く月～金の10時から16時まで、健康チェック、健康相談を行い、闘病記文庫、パンフレット、図書の利用をすすめた。ミニ健康講座・ミニコンサートを9回、ボランティア会議3回、事例検討会2回、運営会議12回、健康ボランティア育成講座の共催、中央区市民カレッジの共催、中央区福祉祭りへの参加、白楊祭への参加、地域への広報活動(チラシ等の配布)を行った。

研究活動として、市民と看護職との健康相談のパターン分類、健康相談利用者からの評価の調査、骨粗鬆症の認識調査と年代別パンフレットの作成(骨粗鬆症財団の研究助成による)、市民ボランティア活動の今後の発展をめざした意見聴取の4テーマに取り組み、学会発表を2題行った。

学部学生の演習として、2科目(看護援助論Ⅰ:4名、生涯発達看護論Ⅱ:6名)計10名を受け入れた。



きょうのお話

1. 血圧って何？ 高血圧とは？
2. 血圧の計り方
3. 高血圧はなぜ悪い？
4. 血管を老化させる高血圧以外の原因
5. 高血圧の管理と治療は？

企業との連携－産学共同プロジェクト

テルモ株式会社よりの寄付金をもとに、より直接的に社会貢献に寄与する産学共同プロジェクトとして、2007年12月より新たに「聖路加・テルモ共同研究事業」が立ち上がった。

その中には新規事業として2008年度よりスタートした「聖路加・テルモ 新健康カレッジ」や、2007年度で終了した21世紀COEプロジェクトを継続実施する「ナースクリニック」の中の6つの事業および健康ナビスポット「るかなび」での様々な事業がある。

新規事業である「聖路加・テルモ 新健康カレッジ」と称した一般市民向けの様々な健康支援セミナーでは、市民に対して、直接的に健康についての学びの場を提供している。「新健康」のコンセプトは、「無病息災ではなくても、たとえ持病があっても、上手くそれをコントロールしながら、心身ともにより良く心豊かに生きる」ことを目指す、という理事長の提唱によるものである。2008年度は全7回の講演やセミナーが開催された。参加者が300人規模の市民アカデミーを中心として、その前後に参加者40～50人規模の春期セミナー「働く女性の健康を支援する」シリーズと秋期セミナー「シニアの健康を支援する」シリーズを実施した。地域市民のセルフケアを支援するこれら産学共同プロジェクトはいずれも好評で、2009年度も継続実施されることになった。

2008年度看護実践開発研究センター 事業一覧

| | 事業 | | 研究センターの機能 | | | | | 連携・共同事業 | 掲載ページ | |
|----------|-----------------------|---------------------------------|--------------|--------|---------|------|-----------|--------------------|-------|------|
| | 事業カテゴリー | 事業名 | 看護実践開発に関わる研究 | 生涯学習支援 | 実践の場の提供 | 情報発信 | 国際的学際的な交流 | | | 研究支援 |
| 看護ケア研究部門 | ナースクリニック | 赤ちゃんがやってくる | | | | | | | 6 | |
| | | ルカ子母乳育児相談室 | | | | | | | 6 | |
| | | ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ | | | | | | (株)テルモ | 6 | |
| | | 乳がん女性のためのサポートプログラム | | | | | | (株)テルモ | 6 | |
| | | 子どもの健康、知ろう、考えよう | | | | | | (株)テルモ | 7 | |
| | | リンパ浮腫ケアステーション | | | | | | | 8 | |
| | | 天使の保護者ルカの会 | | | | | | (株)テルモ・文部科学省研究費補助金 | 7 | |
| | | 在宅高齢者・介助者のための食事・栄養・看護相談とカウンセリング | | | | | | | 8 | |
| | | 聖路加 和みの会 | | | | | | S M T F 助成金 | 8 | |
| | | 転倒骨折予防体操教室 | | | | | | (株)テルモ | 9 | |
| | | 出張介護講座 | | | | | | (株)テルモ | 9 | |
| | 調査・研究 | | | | | | | | | |
| 教育研究部門 | るかなび | るかなび：聖路加健康ナビスポット | | | | | | (株)テルモ | 19 | |
| | 市民健康講座 | 朗読の会 | | | | | | | - | |
| | | 中央区との連携事業 「まなびのコース」 | 中央区民カレッジ | | | | | 中央区 | 13 | |
| | | 中央区との連携事業 「シニアコース」 | 中央区民カレッジ | | | | | 中央区 | 13 | |
| | | 中央区との連携事業 妊婦のためのYOGAクラス | | | | | | 中央区 | - | |
| | | 健康支援ボランティア講座 | | | | | | 文部省科学研究費補助金 | 11 | |
| | | 新健康カレッジ | | | | | | (株)テルモ | 11 | |
| | | 市民アカデミー | | | | | | (株)テルモ | 12 | |
| | ストレスマネジメントヨーガ | | | | | | | 11 | | |
| 調査・研究 | | | | | | | | | | |
| 国際看護研究部門 | WHOコホーレティングセンターとの共同事業 | | | | | | | | - | |
| | 海外からの研修受入れ | | | | | | | | - | |
| | 海外研究者等招聘 | | | | | | | | - | |
| | 調査・研究 | | | | | | | | - | |
| 政策研究部門 | コンサルテーション | 看護管理コンサルテーション | | | | | | | 15 | |
| | | 在宅ケアコンサルテーション | | | | | | | 16 | |
| | | 緩和ケアコンサルテーション | | | | | | がんプロフェッショナル養成プラン | 15 | |
| | 調査・研究 | | | | | | | | | |
| 継続教育部門 | 認定看護師教育課程 | 不妊症看護認定看護師教育課程 | | | | | | | 18 | |
| | | がん化学療法看護認定看護師教育課程 | | | | | | がんプロフェッショナル養成プラン | 18 | |
| | | 訪問看護認定看護師教育課程 | | | | | | 日本財団 | 18 | |
| | 認定看護管理者講習 | 認定看護管理者ファーストレベル講習 | | | | | | | 18 | |
| | ナーススキルアップ | E B N ～さがす・よむ・つかう臨床研究～ | | | | | | | | - |
| | | 退院調整看護師養成プログラムと活動支援 | | | | | | | | 16 |
| | | がん看護事例検討会 | | | | | | がんプロフェッショナル養成プラン | 16 | |
| | | 精神看護事例検討会 | | | | | | | | - |
| | | 英文文献を読もう！パート | | | | | | | | 15 |
| | 英文文献を読もう！パート | | | | | | | | 15 | |
| 調査・研究 | | | | | | | | | | |
| 研究支援室 | 教育・研究支援 | | | | | | | | | |

2008年度教育・研修におけるセンターの活用状況

| 教員氏名 | 利用者数 | 学生種別と人数 | 科目(授業・演習・研究の一環として利用した場合) |
|---------------------------|------|---|--|
| 堀内 成子 片岡 弥恵子 永森 久美子 | 115名 | 学部4年生14名 学部4年生10名 3年生3名 大学院(修士1・2年)25人、(博士)3人 全国からの看護職:約60人 | 家族発達看護論 看護ゼミナール 臨地実習B ペリネタル・ロス研修 博士課程研究の一部を含む |
| 小松 浩子 | 9名 | 聖路加国際病院看護師5名 他病院看護師 4名 | - |
| 片岡 弥恵子 | 5名 | 学部4年生 | 看護ゼミ(性教育) |
| 江藤 宏美 | 1名 | 修士2年生 | 課題研究 |
| 森 明子 實崎美奈 | 15名 | 認定看護師教育課程 不妊症看護コース | 演習 |
| 菱沼 典子 | | 本学1年生・学士編入12回生 | 看護学概論 |
| 安ヶ平 伸枝 | 7名 | 2年生(編入12回生含む) | 看護援助論 |
| 深谷 計子 | 8名 | タイ:マヒドン大学 4名 韓国:ヨンセイ大学 4名 | - |

| 教員氏名 | 利用者数 | 学生種別と人数 | 科目(授業・演習・研究の一環として利用した場合) |
|-------|------|--------------|--|
| 亀井 智子 | 17名 | 本学2年生 3名 | ・生涯発達看護論 |
| | | 本学4年生 3名 | ・看護研究、看護ゼミナール |
| | | 海外研修生 4名 | ・Adult Day Service日米交流 |
| | | 国内研修生 7名 | ・Intergenerational Day Program日米交流 ・高齢者デイサービス職員研修 |
| 大森 純子 | 6名 | | ・大学院生の研修 ・大学教員の研修 ・実践家の研修 ・研究スポンサーによる研究視察 ・大学研究者との研究交流 |
| | | 2年生・学士編入11回生 | 生涯発達看護論(演習:壮年期・見学実習) |

2008年度看護実践開発研究センター 運営委員会・専任研究員・支援室スタッフ

運営委員会

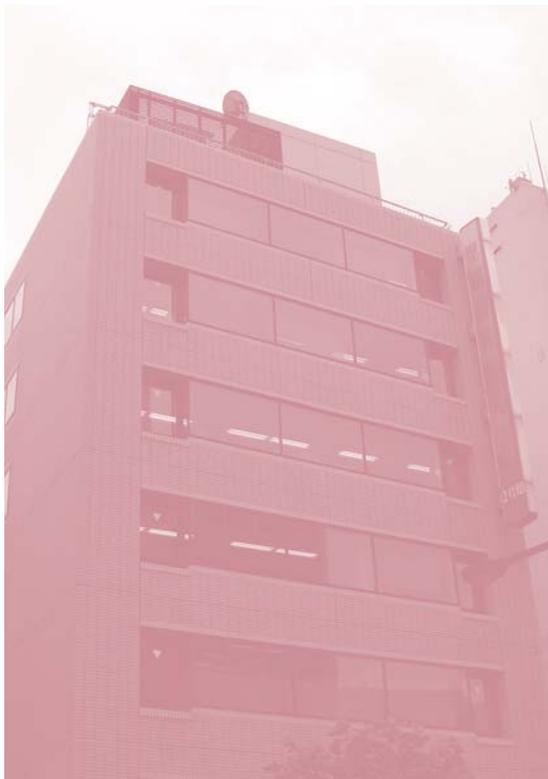
| | | |
|-----------|--------|-------|
| センター長 | 教授 | 山田雅子 |
| 専任研究員 | 教授 | 小口江美子 |
| 専任研究員 | 教授 | 森明子 |
| 専任研究員 | 准教授 | 吉田千文 |
| 専任研究員 | 助教 | 矢ヶ崎香 |
| 専任研究員 | 助教 | 實崎美奈 |
| 専任研究員 | 助教 | 細川恵子 |
| 看護ケア研究部門長 | 教授 | 小松浩子 |
| 教育研究部門長 | 教授 | 菱沼典子 |
| 国際看護研究部門長 | 教授 | 田代順子 |
| 政策研究部門長 | 教授(学長) | 井部俊子 |
| 継続研究部門長 | 教授 | 松谷美和子 |
| 研究科長・学部長 | 教授 | 堀内成子 |

専任研究員

| | |
|-----|-------|
| 教授 | 小口江美子 |
| 教授 | 森明子 |
| 准教授 | 吉田千文 |
| 助教 | 矢ヶ崎香 |
| 助教 | 實崎美奈 |
| 助教 | 細川恵子 |

支援室スタッフ

| | |
|------|-------|
| 専任職員 | 森島久美子 |
| 専任職員 | 高木裕也 |
| 専任職員 | 河合智子 |
| 専任職員 | 岡部陽子 |
| 専任職員 | 平良智子 |



**St. Luke's College of Nursing
Research Center for
Development of
Nursing Practice**

**2008年度聖路加看護大学
看護実践開発研究センター報告書**

2009年6月30日発行

発行者：聖路加看護大学看護実践開発研究センター

発行所：株式会社ブリカ